

豊川市議会傍聴記 ④

地方政治
クリエイティブ
伊藤 秀昭

豊川市議会6月定例会は8日から一般

質問を行い16人が登壇し、市政全般に、一般質問を行い、市長並びに当局に質(た)だした。

◆土地利用

最初に登壇した星川博文氏(とよかわ未来)は市民の関心の高い工業団地における土地利用について質問した。

市長は八幡地区の日立側は、文化、交流、福祉などの公共施設や住宅用地として、ススキ側は商業施設として検討を進めていくと

また名古屋大学

宇宙地球環境研究所用地の9・5畝については「3畝は平和公園用地として整備し、残りの6

5畝は企業を誘致

したい。この地にある海軍工廠時の遺産はできるだけ平和公園に移設保存する」とした。

企業の撤退という

ピンチをチャンスに変えて豊川市の新たなまちづくりがスタートしていく。

◆女性活躍推進

中村浩之氏(とよかわ未来)は4月1

日より施行された「女性活躍推進法」に基づき、市役所における女性活躍推進の取り組みについて取り上げた。

企画部長は女性職員採用の現状は、全体の56・5%で、行政職は28%であると、「行政職採用者の

女性割合を30%以上

と目標を設定し採用拡大に取り組む」とした。

働き方改革ではフ

レックスタイムやテレワークの導入については慎重に検討していく」とした。

市役所として一般事業主を率先垂

範できる範を示せるかどうか。責任は重い。

◆生涯学習推進計画
井川郁恵氏(公明)は第3次生涯学習推進計画の取り組みについて質問した。

教育部長は第2

次計画期間中に立ち上げた「とよかわオープンカレッジ」を中心に放課後子ども教室や地域生涯学習講座が一定

の成果を収めたことから、特にきつかけづくりを重視し第3次計画に反映した。さらに新規事業では生涯学習と

市民活動の連携やボランティア活動との連携などに取り組むとして、PD

CAが機能して地域づくりへ成果を収めていることが示されたが、家庭教育にまで反映させたいもの。

◆子育て環境

3歳未満児やその受け入れ態勢について質問したのは神谷謙太郎氏(とよかわ未来)。

子ども健康部長は豊川市ではすべての保育園で生後57日目・産休明けの段階から預かることができるとし、今

年4月時点で1265人の3歳未満児を受け入れているとした。

神谷氏は「希望どおりに入所できない状況があり、施設整備と一時保育の充実」を要請した。

「子育てするなら

豊川市」への取り組みは、ハード・ソフト両面から多くの課題があり、着実な取り組みが期待される。

◆納税環境整備
大場昌克氏(清風会)は歳入の46%を占める市税の納税業務について取り上げた。

特に国から地方への税源移譲に伴い、急増した個人住民税の滞納への対応策として、全国的に特別徴収義務者の一斉指定の動きが始まり、今年度、東三河でも連携して特徴一斉指定を行ったことによ

り37・3%増の指定ができ、税額でも9・8%、納税義務者数は13%増、特徴率は8割台に上る見込みとした。

大場氏はマイポータルや電子納税の動きもあり、納税者目線の納税環境の整備を要請した。

◆創生戦略
石原政明氏(清風会)は3月に策定を終えた創生総合戦略

について質問し、総合戦略の特徴やその推進に関する国の財政支援について議論した。

国は地方創生の深化を目指して、加速化交付金から推進交付金、さらには地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)など先駆性を高め、レベルアップを進めようとしている。それだけに地方の自主的・主体的な取り組みが要請されている。

石原氏は毎回の一般質問に登壇し、時々の地方政治の課題を取り上げ、真正面から議論していく姿勢を評価したい。

子育てするまちへ多角度から議論